

1. 昭和 59 年度後半及び昭和 60 年度活動計画

- (1) 委員会
- (2) 見学会
- (3) W. G.
- (4) IR 研究会
- (5) 講演会

図書資料委員会

第 12 回 W. G. 2 開催日: 11月1~2日. 開催地:
日本鋼管・熱海寮. 出席者: 西垣幸雄, ほか 10 名.

1. 59 年春季分索引誌 No. 8 の入力原稿作成作業

鉄鋼基礎共同研究会

第 14 回連続製造における力学的挙動部会 開催日:
10月19日. 出席者: 森部会長, ほか 28 名.

1. 研究発表 8 件
 - (a) 低静鉄圧下における鋳片バルジング挙動
 - (b) 鋳型内凝固シエルの応力解析
 - (c) クリープを考慮したバルジング解析
 - (d) 連鋳片の曲げ矯正歪に関するシミュレーション実験および解析
 - (e) 高温における破面観察および組織観察
 - (f) 非線形境界要素法の弾塑性問題, 弾/粘塑性除荷問題への応用
 - (g) 連鋳スラブの表面欠陥防止法

(h) 炭素鋼の高温脆化特性におよぼす P の影響

第 18 回融体精錬反応部会 開催日: 10月22日. 出席者: 森部会長, ほか 24 名.

1. 研究発表 計 8 件
 - (1) スラグ-溶鉄間反応の平衡論的研究 2 件
 - (2) スラグ-溶鉄間反応のプロセス工学的研究 3 件
 - (3) 転炉精錬 2 件
 - (4) 特殊フラックスによる精錬反応 1 件
2. 部会報告書編集について
3. その他

第 1 回計測材料評価委員会 開催日: 10月16日. 出席者: 岸委員長, ほか 17 名.

昭和 58 年につづいて 59 年度の科学技術庁予算の内示があり今年度の調査研究を行うこととなった. 59 年度第 1 回の委員会では前年度の経過報告, 59 年度の委員会の計画案の検討を主体に行った. 今年度は委員会を 4 つのグループ (Fatigue, Corrosion, Temper Embrittlement, および Creep) に分け, また文献調査委員会を別に設けることとした. 全体委員会は 4 回開催することとし, 今年度中に当研究委員会の最終まとめを行う予定である.

新刊紹介

特別報告書 No. 37

「原燃料からみたわが国製鉄技術の歴史」

発行のお知らせ

本会鉄鋼科学・技術史委員会製鉄ワーキンググループでかねてより標記報告書の編集をすすめておりましたがこの程発行されましたのでお知らせいたします。

本書は第 1 部はわが国における製鉄技術全体の発展過程を伝統技術に遡つてたどり, 原燃料とその技術の役割をあきらかにすることを主旨とする通史である. 第 2 部では有力な鉄鉱石資源だけでなく強粘結炭資源をもたないわが国の第 2 次大戦前および後における原燃料政策の推移, および戦後には特に大きな役割を演じるにいたつた海上輸送の問題を論じている. 第 3 部はわが国における原料事前処理技術の発展過程を, その世界における発展過程との関連のもとに, 主として技術思想の観点に立つて述べるものであり, 第 4 部はわが国における原料炭・コークスに関する技術と理論の変遷をほぼ全面的に論じるものである. また試論は第 5 部として, 本格的な製鉄理論史のための一つの礎石となることを期待して, 高炉製鉄理論の発展の経過を略述したものである.

以上本書は製鉄技術者を初め, 製鉄技術とその重要な規定要因としての原燃料をめぐる歴史的諸問題に多様な関心をもたれる方々に是非ご利用下さいませようご案内いたします。

1. 書名 「原燃料からみたわが国製鉄技術の歴史」
2. 価格 会員 6,000 円(送料別), 非会員 8,000 円(送料別)
(B5 版, 本クロス上製本, 434 ページ)
3. 申込方法 現金書留, 銀行振込, 郵便振替 (東京 7-193) でお申し込み下さい.
4. 申込先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4
日本鉄鋼協会庶務課 Tel. 03-279-6021